

# 林ともじ都議選候補から推薦依頼がありました

## 【林ともじ氏の推薦理由】

林ともじ氏より、次期都議会議員選挙の推薦依頼がありました。林ともじ氏は、東京都の行財政改革を強く訴えております。地元会員とも協議を重ね、当選の暁には、本気で政策に取り組むと私たちは確信致しました。

林ともじ氏の陣営の責任者には沖山一雄・区議がおりますが、その沖山氏も当会の前からの会員であり、人格・識見とも優れています。

林ともじ氏を次期都議会議員選挙で、地元会員有志が推薦・支援することとなりましたが、「都民の会推薦」として頂ければ、更に一層の幅広い支援体制ができるものと期待し、「都民の会推薦」をお願い申し上げる次第です。

以上、ご高配の程、宜しくお願ひ申し上げます。

練馬区・豊島区エリアマネージャー 治田桂四郎  
林ともじ 支援者代表 長妻 昭

## 【林ともじの政策】

林ともじ（次期都議会議員選挙・民主党公認候補）

今度こそ・・！私の決意

国、地方を併せて、日本の借金は440兆円にものぼると言われています。私たちの子ども、孫にその借金を残さないためにも、又、高齢社会に備えるためにも、まさに今、徹底的に行財政改革に取り組まなければなりません。

年間の維持管理費が、70億円と言われる都庁舎、10億円の練馬区庁舎に象徴されるように、地方政府はいかにも放漫運営だったと言えます。

練馬区においては今の行政サービスを維持するためには、今後、毎年80億円以上の欠損が出るとの報告があります。東京都においても平成7年度の歳入が、約10年前の昭和62年度の歳入と同水準になってしまいました。一方、歳出の面では投資的経費、経常経費共に、昭和62年当時の2倍以上に膨れ上がっています。地方行政の置かれている状況が非常に厳しいものであることが判ります。

改革には痛みが伴います。

効率的で開かれた行政をめざし、市民が知恵を出し、市民の感覚で、市民が主役の改革を行わなければなりません。

私もみなさんと共に渾身の努力を致します。どうぞ、みなさんの大きなお力添えをお願い致します。

## 【私の政策目標——夏、東京をかえます】

### ■市民が主役の行財政改革

- ・歳出削減
- ・地方分権
- ・規制緩和
- ・役人の既得権益の打破
- ・財政自主権
- ・事務、事業の総点検

### ■生き生きとした福祉社会の創造

小学校を拠点としたネットワークづくり

### ■交通体系の整備

- ・地下鉄12号線の大泉方面への延伸
- ・環8道路に新交通システム（エトライナー）導入

### ■個性が光るゆとりの教育

- ・独自性を重視した学校運営
- ・学区制の廃止
- ・田舎の学校との交流
- ・中高一貫教育の推進

### ■新 山の手ゾーン練馬区

- ・残された自然を大切にしながら、良好な住宅地としての都市整備を進める。

### ■自然との調和をはかる環境政策

- ・自然保全
- ・太陽エネルギーの活用
- ・ゴミの減量
- ・リサイクル型都市つくり

## 【林ともじのプロフィール】

1942年11月28日東京都生まれ。練馬区立中村小・旭丘中・都立大泉高を経て電気通信大学卒業。東北放送（株）テレビ局勤務。その後、世界23ヶ国を一人旅。1973年（有）林知二商店（米穀・酒類・自然食品販売）を創業～今日に至る。1973年練馬区区議選当選、以来4回当選。都市環境委員長・監査委員などを歴任。1993年都議選に立候補、惜敗。1996年民主党結党に参画。現在、民主党練馬政策委員長。

家族は妻・1男・2女。趣味はスキー・テニス・読書・土いじり。

# 70才からのパソコンへの挑戦

新宿区 70才 佐藤雀鳥 次良

との話。私からの感想では御世辞も有ると思うし、覚えも悪く、教えるのに面倒も多いと考えるが、その真剣さのパワーには、その多くの障害を乗り越えるに充分なエネルギーが感じられる。

たしかに現在のパソコンは親切心が足りない。若い人が設計して、それと同じレベルの頭の人を対象に取り扱い書を書いて居るのだから、わからないのは当然。私達の身体の老化のスピードより、現代の科学のスピードのほうが早い現在、私達が入り口のインストラクターの一部を担えるものと、自負を持って取り組んで居る毎日である。

私は最近、都議選に立候補すべく準備を進めて居る葛飾の古木さんに勧められて「高齢協」と言う組織に入り、その中の「パソコン教室」に参加して悪戦苦闘している。私が70才に成ってコンピューターを買うと言ったら、息子や娘は今更無理だと冷ややかで有った。

然し教室に通い始めて、驚いた事は同年代の学生が多い事。勿論世間一般から見たら少数かも知れないが、又その熱心なことは、若いインストラクターの話では「一般的の若い学生は色々と幅が有って真剣さにも千差万別だが、年を取った人は皆真剣です」